



DMG森精機株式会社

証券コード：6141

DMG MORI

DMG MORIグループとして シナジー効果をますます発揮

2009年よりDMG MORI AKTIENGESELLSCHAFT（以下、DMG MORI AG）と資本・業務提携を開始し、営業・サービス、製品開発等の事業の各分野で統合を進めてきました。2013年10月1日には、両社の社名を統一し、DMG MORIブランドのさらなる強化を図っています。2015年5月には、当社のDMG MORI AGの株式保有比率が過半数を超え、連結企業として一体となりました。統合の成果をより発揮するために、技術の集積や購買力向上に規模の効果を活かしてまいります。今後さらにDMG MORIグループとして、

IT・人事などの基幹システムや働き方、社員一人ひとりの気持ちについても統合を進めてまいります。売上高世界トップの工作機械メーカーとして、より永続的にお客様から信頼される企業への成長を目指します。



2013

社名を統一

森精機によるDMG株式保有：24.33%
DMGによる森精機株式保有：9.63%
共同製品ライン拡大

2015

一体経営を開始

森精機によるDMG株式の公開買い付けを発表
森精機によるDMG株式保有比率は52.54%まで上昇

世界的にDMG MORIブランドの浸透強化を図るため、2015年6月の定時株主総会での承認を得て、当社の英文商号を「DMG MORI SEIKI CO., LTD.」から「DMG MORI CO., LTD.」へ変更いたします。また、「DMG MORI SEIKI AKTIENGESELLSCHAFT」は「DMG MORI AKTIENGESELLSCHAFT」へ2015年5月の定時株主総会での承認を得て商号を変更いたしました。

技術融合で強みを活かした 製品開発の促進

当初DMG MORIとして約300機種種の製品が存在していましたが、2020年を目処に100機種程度に集約していく方針です。周辺機器を含めたシステム化及びアプリケーションを充実させ、お客様へのソリューション提案を拡大してまいります。主軸や送り系に代表される部品やユニットの共通化も開始しています。2013年時点では約270,000種類の部品が存在していましたが、2014年には約10,000種類の部品削減に成功し、2020年を目処にさらに部品の共通化を進め、約135,000種類まで削減することを目標に掲げています。



グローバルな生産体制で 一層の効率化

2015年は奈良でターンキー案件の専用工場を建設します。大型化・複雑化・システム化するお客様のご要望に、確実にお応えできる体制を整えます。また現在、ドイツ・フロンテン工場では横形マシニングセンタNHX 4000、イタリア・ベルガモ工場ではNC旋盤NLX 2500 I SY700の生産を行い、千葉事業所と北米工場においても5軸加工機DMU 50の生産を開始しました。生産体制の強化に加えて、今後さらに世界均一の品質を達成するために、各拠点で作業手順の統一にも取り組んでまいります。

販売・サービス網の拡充で サポート体制を強化

2014年7月には東京、12月にはスイス・チューリッヒにてグローバルヘッドクォータをオープンし、全世界のセールス・サービス・マーケティングを統括する拠点として機能しています。世界中の各拠点で、オープンハウスなどの自社展示会や各種セミナーを開催しており、お客様に当社の製品や技術をご覧いただく機会を定期的に設けています。そのための人員体制についても全世界で強化してまいります。



東京グローバルヘッドクォータ（日本）



チューリッヒグローバルヘッドクォータ（スイス）

協業の歴史

2009

協業開始

販売統合・製品の相互供給・
内製部品の供給・共同購買開始
両社5%ずつ株式持ち合い

2011

森精機がDMG株式を20.1%まで追加取得
最初の共同開発製品をリリース

DMG MORI

お客様にとって一番の 工作機械メーカーであること。 それが私たちの グローバルワンです。

工作機械の総合メーカーとして、DMG森精機は常に
変革と挑戦を続けてまいりました。

そして今、私たちが目指していること。それは、お客様に
とって一番の工作機械メーカーになることです。

最高の技術とサービスを絶えず追求し、工作機械の
新しい価値を、無限の可能性を、

世界中のお客様へお届けしてまいります。

取締役社長
工学博士 森 雅彦



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、
心よりお礼申し上げます。ここに第67期（2014年
4月1日から2015年3月31日まで）の株主通信を
お届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

事業の経過及び成果

当期の工作機械業界における引合・受注の環境は、欧州経済の
先行きや原油安によるエネルギー関連需要の失速など懸念材料は
あるものの、安定的な円安基調を背景に企業の高い設備投資意欲に
支えられ、日本工作機械工業会が発表した平成26年度の工作機械
受注実績は前期比で31.0%増加するなど、受注環境は引き続き
堅調に推移しております。当社グループにおいても、日本や米州を
中心とした堅調な受注を背景に、今後も当期以上の受注の拡大が
期待できるものと考えております。こうした状況のもとで、当期の
業績は、連結売上高174,660百万円（前期比8.7%増加）、連結
営業利益14,236百万円（前期比52.1%増加）、連結経常利益
20,354百万円（前期比81.0%増加）、連結当期純利益15,216百万円
（前期比61.1%増加）となりました。

当期の取り組みと課題

当社はDMG MORI AKTIENGESELLSCHAFT（以下、DMG
MORI AG）に対する当社連結対象会社（以下、DMG MORI
GmbH）による公開買付け（以下、本公開買付け）を公表し、実施
してまいりました。2015年4月に、当初買付け期間に続く追加買付け
期間が終了し、本公開買付けの買付け期間が全て終了いたしました。
公開買付けの結果、当社グループの株式保有比率は52.54%となり
ました。2015年5月に独占禁止法及び競争法の承認を得て、DMG
MORI AG株式の決済を行い、DMG MORI AGは当社の連結対象
会社となりました。今後は、対等の精神で企業の統合を加速して
まいります。また、従来の日本基準に替えて国際会計基準（以下、
IFRS）を任意適用すること、及び、2015年6月に開催の第67回

定時株主総会の承認を得て、決算期を変更いたします。IFRSを導入
することにより、財務情報の国際的な比較可能性の向上、グループ
内の会計処理の統一を図り、ステークホルダーの皆様のご利便性を
高めてまいります。

2015年2月にはDMG MORI AGのドイツ・フロンテン工場にて
オープンハウスを開催し、8,000名を超えるお客様にご来場いただき
ました。インダストリー4.0及びIoTにも対応できる新オペレーティング
システムCELOSを搭載した高精度・高速横形マシニングセンタ
NHX 4000の第2世代モデルを公開しました。さらに、レーザー金属
積層造形とミーリング加工のハイブリッド機であるLASERTEC 65
3Dを含む、計72台の最新鋭の工作機械を出展し、多数の
受注を獲得することができました。また2015年4月には、北京で開催
された中国国際工作機械見本市（CIMT）2015に出展企業中最大と
なるブースに、計33台の最新鋭の工作機械を展示いたしました。
これまで安価でローエンドの工作機械が主流だった中国市場に

においても、より高精度で高品質な本物の工作機械が求められるよう
になりました。今後も引き続きお客様の生産性と効率性の向上に貢献
してまいります。

配当について

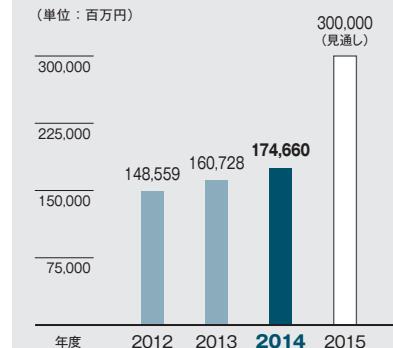
第67期の期末配当につきましては、当社の業績と経済情勢を勘案し、
1株あたり13円を6月22日からお支払いすることといたします（中間
配当と合わせ、通期では25円となります）。利益配分につきましては、
将来の事業計画、業績、財務状況、新製品や新技術を中心とした
開発投資及び設備投資の充実などを総合的に考慮し、安定的かつ
継続的に配当を実施していくことを基本方針としております。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご協力を
賜りますようお願い申し上げます。

2015年6月

連結売上高

1,747 億円
前期比
139 億円 増



連結営業利益

142 億円
前期比
49 億円 増



連結当期純利益

152 億円
前期比
58 億円 増



(注) 当社は、2015年度より決算期を3月31日から12月31日に変更いたします。従いまして、2015年12月期は決算期変更の経過期間となることから、
通期業績予想は9ヵ月間（2015年4月1日～2015年12月31日）の予想数値を記載しております。

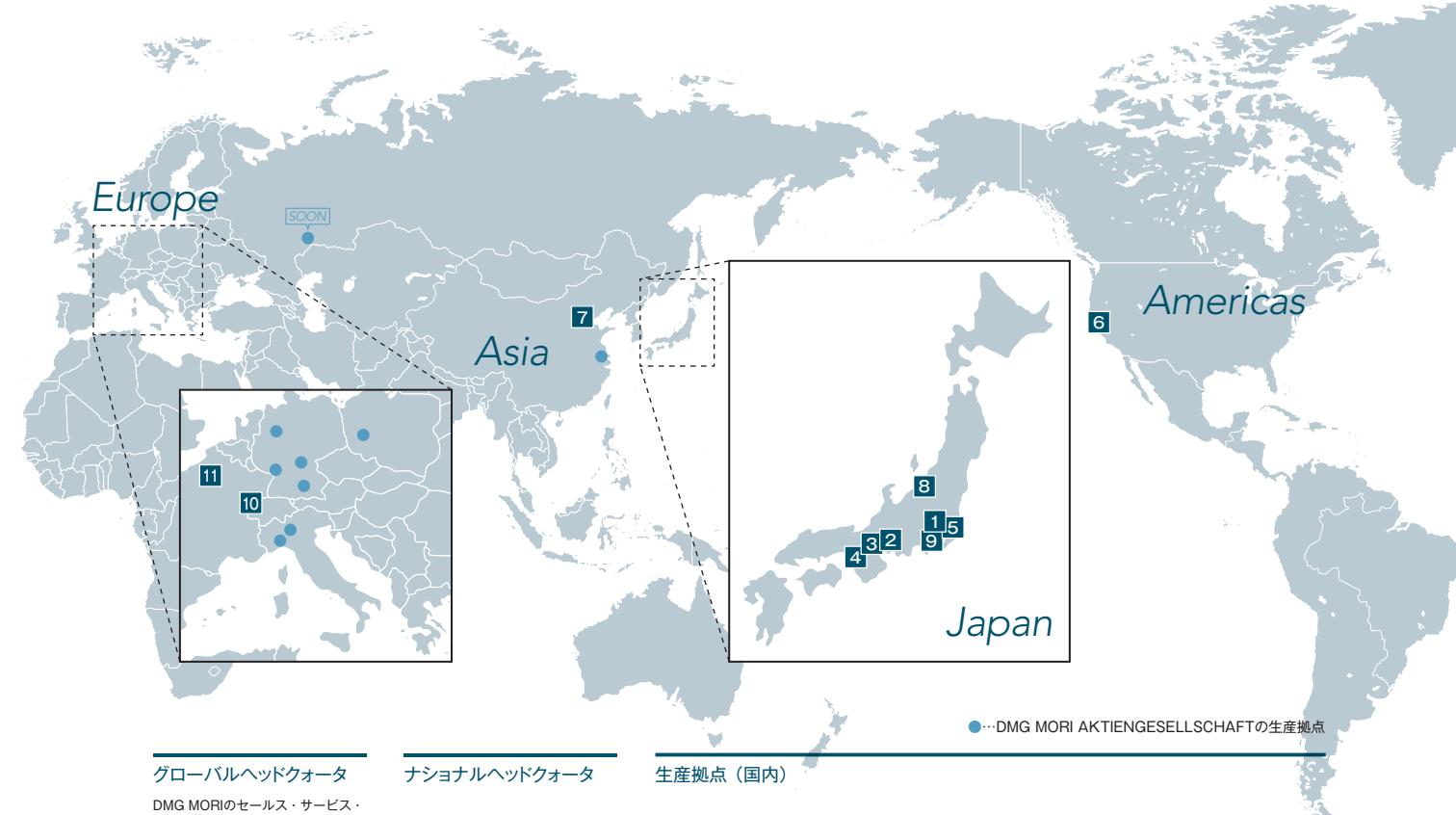
私たちの生活は衣食住に加えて、移動する、通信する、健康に暮らすなどの行動で成り立っています。そしてその全ての人間活動に工作機械は欠かせません。一見関係がないように思える身近な日用品も、実はもとをたどれば工作機械が関わっています。



複合加工機
NTX 1000 2nd Generation

5軸マシニングセンタ
DMU 75 monoBLOCK

		航空・宇宙・船舶
ブリスク		
		自動車・バイク
シリンダブロック		
		建機
建機部品		
		電機・通信・半導体
ポンプハウジング		
		織機・繊維機械
コア		
		農業機械
ギヤシャフト		
		医療
人工骨		



●...DMG MORI AKTIENGESELLSCHAFTの生産拠点

グローバルヘッドクォーター

DMG MORIのセールス・サービス・マーケティングを統括します。



1 東京

ナショナルヘッドクォーター

DMG森精機の本社として機能します。



2 名古屋

生産拠点 (国内)



3 伊賀



4 奈良



5 千葉

生産拠点 (海外・グループ会社)



6 Davis (アメリカ)



7 Tianjin (中国)



8 太陽工機 (新潟)



9 マグネスケール (神奈川)



10 Dixi machines, Le Locle (スイス)



11 Tobler, Louvres (フランス)



2014年7月・12月

セールス・サービス・マーケティングを統括する、グローバル拠点

DMG MORIのセールス・サービス・マーケティングを統括する拠点として、東京とスイス・チューリッヒにグローバルヘッドクォーターがグランドオープンしました。併設するソリューションセンターでは、広い展示スペースに常時20~30台の革新的な製品を展示し、専門知識をもったエンジニアが新デザインとCELOSを搭載した工作機械の紹介にあたります。東京はアジア、チューリッヒはヨーロッパを中心に2拠点で全世界を統括し、空港からのアクセスの良さを活かしたサービスの拠点としても、多くのお客様にご活用いただけるよう、セールス・サービス・マーケティング活動を展開していきます。



2014年10月

JIMTOF2014において全32機種を統一デザインで出展

JIMTOF2014では、出展企業中最大となる2,340㎡のブースに、新機種9台を含む計32台の最新鋭の工作機械を展示し、全ての機械でデモ加工を行いました。今回は、全ての機械がプレミアムデザイン機となり、操作盤はタッチパネル操作を可能とするCELOSを搭載したERGOline Touchや、量産加工機用に新たに開発したCOMPACTlineを搭載し、DMG MORIの最新技術を結集した次世代の工作機械を一堂にご体感いただける6日間となりました。期間中は多くのお客様が来場され、ご意見、ご要望をお寄せいただきました。それらのお声を今後の製品開発に活かし、また新たな製品として展示会で披露できるよう努力いたします。

2014年10月

X classが累計10,000台突破

高精度、高品質、高信頼性を追求した次世代の工作機械 X classのグローバル累計受注台数が、10,000台を突破しました。2014年からは、新開発のタッチパネルでの操作を可能とした新型オペレーティングシステムCELOSを搭載し、設備機械というイメージを一新する新デザインを採用しました。また、より一層のニーズにお応えすべく、高剛性台形ベッドによる高い切削能力と大径長尺ワークに対応する4軸複合加工機 NZX 4000、DMG MORI AGとの共同開発でさらなる高付加価値を実現したNTX 1000 2nd Generationを発売しました。充実したラインアップで、今後も進化し続けるX classにご期待ください。



2015年4月

小型旋盤を専門とした、DMG森精機ワシノ株式会社を設立

お客様のより一層の満足向上のため、2015年4月よりDMG森精機ワシノ株式会社を設立し、ワシノブランドの旋盤事業を新しく展開しています。当社は、グローバル規模でお客様のご要望にお応えするラインアップを擁していますが、株式会社アマダより小型旋盤の事業を譲り受けることで、さらに製品の品揃えを充実できるものと考えています。現在、当該事業は国内を中心に展開していますが、ワシノの技術・品質・ブランドは海外においても充分通用するものと確信しています。今後小型旋盤のラインアップをさらに充実させ、お客様のあらゆるご要望にお応えします。

2014年12月

ターンキー案件専用工場 奈良事業所に建設を発表

奈良事業所に、ターンキー案件の専用工場を建設します。2015年5月に着工、2015年中の完成に向けて準備を進めています。現在奈良事業所には、第一工場、第二工場がありますが、それに次ぐ第三の工場として活用し、完成車や自動車部品の生産ライン向けの工作機械を組み立て、長さ80mの生産システムラインが4本設置できるターンキー案件専用の工場となります。量産部品加工用高速横形マシニングセンタi 50や、高生産性立形マシニングセンタMAX 3000、4軸複合加工機などを新工場にて組み立て、製造を行う予定です。

ターンキー案件専用新工場概要

所在地： 奈良県大和郡山市井戸野町345番1
敷地面積： 約9,000㎡
完成予定： 2015年中



2015年4月

名古屋5軸加工専門スクールを開講

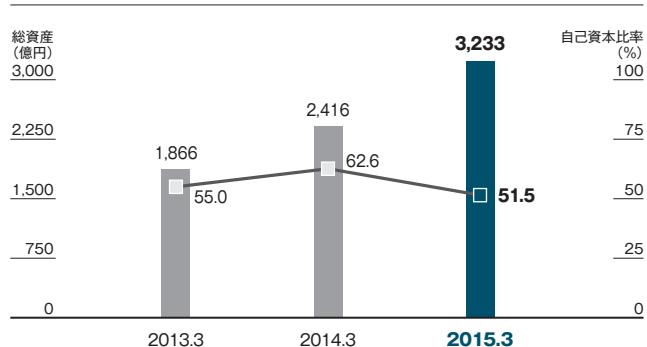
高精度で高品質な5軸加工への高まる需要にお応えするため、当社名古屋本社1Fにて名古屋5軸加工専門スクールを新たに開始しました。国内では、これまで東京グローバルヘッドクォーターと伊賀事業所にて各種スクールを開講していましたが、より多くの機会をご提供すべく、JR名古屋駅から徒歩5分という交通至便な名古屋本社において、5軸加工専門スクールを開講することになりました。これにより、名古屋圏にお住まいのお客様は、ご自宅から毎日スクールに通っていただくことが可能になりました。また、全国各地からのアクセスも容易です。名古屋5軸加工専門スクールでは、DMG MORIの同時5軸加工のベストセラーであるDMU 50を2台設置し、複雑形状ワークを高精度かつ短時間で加工できる方法と段取りを習得していただくことができます。加工の高度化・複雑化などで生産性向上やオペレータ育成に課題を感じられているお客様にとって、より魅力的なスクールとなるべく改善・改良を重ね、今後も引き続きお客様の生産性と効率性の向上に貢献します。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	2014年3月31日現在	2015年3月31日現在
流動資産	99,353	121,165
固定資産	142,317	202,173
有形固定資産	69,009	72,187
無形固定資産	6,112	7,523
投資その他の資産	67,194	122,462
資産合計	241,670	323,339
流動負債	41,454	85,573
固定負債	44,714	66,761
純資産合計	155,501	171,004
負債・純資産合計	241,670	323,339

総資産／自己資本比率



詳細情報は

<http://www.dmgmori.co.jp/ir/>

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	自 2013年4月 1 日 至 2014年3月31日	自 2014年4月 1 日 至 2015年3月31日
売上高	160,728	174,660
売上原価	107,469	112,189
売上総利益	53,259	62,470
販売費及び一般管理費	43,902	48,233
営業利益	9,357	14,236
営業外収益	3,081	8,072
営業外費用	1,192	1,954
経常利益	11,245	20,354
特別利益	4,723	665
特別損失	4,593	55
税金等調整前当期純利益	11,376	20,963
当期純利益	9,442	15,216

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	自 2013年4月 1 日 至 2014年3月31日	自 2014年4月 1 日 至 2015年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,906	11,539
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 17,527	△ 58,427
財務活動によるキャッシュ・フロー	23,914	49,385
現金及び現金同等物に係る換算差額	330	257
現金及び現金同等物の増加額	12,624	2,755
現金及び現金同等物の期首残高	6,268	18,916
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△ 1	△ 262
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	25	—
現金及び現金同等物の期末残高	18,916	21,408

会社の概要

2015年3月31日時点

会社名	DMG森精機株式会社
資本金	51,115百万円
設立	1948年10月
本店(登記上)	奈良県大和郡山市北郡山町106番地
名古屋本社	〒450-0002 名古屋市中村区名駅2丁目35-16 TEL:052-587-1811(代)
東京グローバルヘッドクォータ	〒135-0052 東京都江東区潮見2丁目3-23 TEL:03-6758-5900(代)
主な事業内容	工作機械(マシニングセンタ、数値制御装置付旋盤及びその他の製品)の製造、販売、サービス
従業員	2,721名(個別)／4,324名(連結)
ホームページ	http://www.dmgmori.co.jp

株式の状況

2015年3月31日時点

発行可能株式総数	300,000,000株
発行済株式の総数	132,836,497株(自己株式107,186株を除く)
単元株式数	100株
期末株主数	34,442名

大株主

2015年3月31日時点

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ディーエムジー モリセイキ アーゲー (常任代理人 クレディスイス証券株式会社)	12,797	9.63
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,743	5.08
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,228	4.69
MSIP CLIENT SECURITIES (常任代理人 モルガン・スタンレー・MUFJ証券株式会社)	5,401	4.07
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	3,745	2.82
森 雅彦	3,540	2.67
RBC ISB A/C DUB NON RESIDENT-TREATY RATE (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	3,476	2.62
森 智恵子	2,287	1.72
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,938	1.46
森 優	1,760	1.33

(注) 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

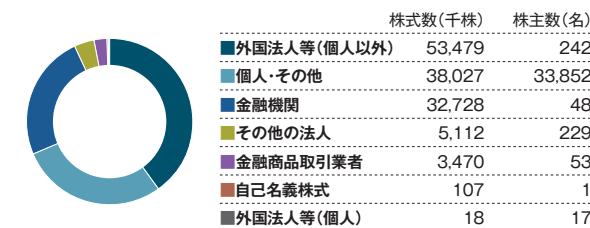
役員

2015年6月19日時点

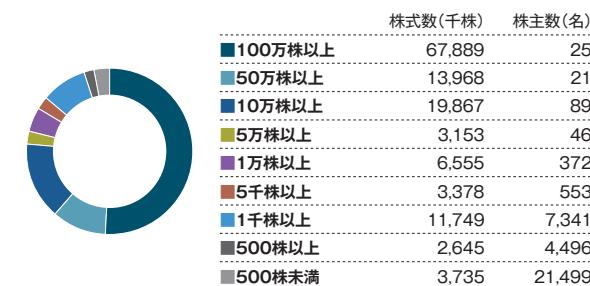
取締役社長	※ 森 雅彦
取締役副社長	※ 近 藤 達 生
取締役副社長	※ 玉 井 宏 明
専務取締役	高 山 直 士
取締役	大 石 賢 司
取締役	青 山 藤 詞 郎
取締役	野 村 剛
常勤監査役	佐 藤 壽 雄
監査役	加 藤 由 人
監査役	木 本 泰 行

(注) 1. ※印は、代表取締役を示しています。
2. 取締役の青山藤詞郎、野村剛の両氏は、社外取締役です。
3. 監査役の加藤由人、木本泰行の両氏は、社外監査役です。

所有者別分布状況



所有株式数別分布状況



株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日 (ただし、第68期は4月1日～12月31日の9ヵ月決算となります。)
期末配当金受領株主確定日	12月31日
中間配当金受領株主確定日	6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話:0120-782-031(通話料無料)
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 電話:0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 市場第1部
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.dmgmori.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

当社ではホームページにて当社の企業情報を随時開示しています。製品紹介、各種リンク、サポート情報等を掲載しているほか、IR情報のサイトでは決算短信等がご覧いただけます。

<http://www.dmgmori.co.jp>



IRページ

